

2024年3月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
 メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
 TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2024年4月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

花粉症
ご相談ください

ご卒業
おめでとう
ございます

18時最終受付

新しい
予約システム

「今月の言葉」

技術の上手下手ではない
 その心が人をうつのだ
 ~ 小澤征爾 (指揮者) ~

小澤征爾さん

3月になりました。皆さま、いかがお過ごしですか？
 さる2月6日に指揮者の小澤征爾さんが88歳で逝去されました。
 小澤征爾さんといえば「世界のオザワ」と称賛され、誰もが彼の
 名を知るクラシック音楽界における巨匠です。私が子どものころ
 世界の指揮者といえばカラヤン、レナード・バーンスタインであり、
 日本を代表する指揮者といえば小澤征爾さんでした。小澤征爾
 さんは年齢が私の父と近く、風貌も似ており親近感を抱いており
 ました。

ところで「指揮者って何をしているの？指揮者が違うとなにか変
 わるの？」と聞かれることがしばしばあります。「指揮者次第で
 オーケストラはガラリと変わる」と断言できますが、その理由を説
 明することはとても難しいです。指揮者というのは自分では音を
 1つも奏でないのに、あとから偉そうに？出てきて、誰よりも盛大
 な拍手をもらう、何だか不思議な存在ですよね。

私は大学2年のとき大学オケで第二ヴァイオリンの首席奏者とな
 り、3年生でコンサートマスターとなりました。大学オケの首席奏
 者は単に最前列で弾けばいいというわけではなく、ときには指揮
 をしながらパート練習をしたり、コンサートマスターは指揮者が不
 在のときは指揮者に代わってオーケストラの指揮をしなくては
 いけません。そこで慌てて(小澤征爾の師匠である)斎藤秀雄氏の
 「指揮法教程」という教則本を先輩から拝借して、勉強したもので
 す。詳しい中身は忘れてしまったのですが、よく学校の音楽の授
 業で習う四拍子はヨットのよう形、三拍子は三角形を宙に描く
 ように図解してあり、「打点」や「たたき」など重要なポイントの解
 説があり、それを読みながら部屋でひとりで練習していたのが懐
 かしいです。

小澤征爾さんの指揮は斎藤秀雄氏に師事しただけあり、細かく
 振って丁寧で分かりやすくまさに斎藤秀雄先生のお手本！という
 指揮でした。

ただ、ベルリン・フィルの指揮者クラウディオ・アバドの指揮は棒
 がプルプルと震えていて打点も分かりづらかったですし、誰もが
 憧れるカルロス・クライバーの美しい指揮は三拍子であっても決
 して三角形を描くことはなかったので、必ずしも斎藤秀雄の指揮
 法がすべてではないということも分かってきました。

美しく流麗なカラヤンの指揮も打点をしっかりと出すよりも、ゆっ
 たりとしたフォーム、大きくつかみ出すような手の動きでオーケ
 ストラからうねるような音を引き出すことが特徴的です。一方バー
 ンスタインの指揮は時に踊るようだったり、祈るようであったり、一
 緒に絶叫していたり、指揮自体が音楽そのもので指揮がテク
 ニックではないことを教えてください。

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30

指揮者の役割として重要なことは、その作品をいかにまとめて仕上
 げていくかです。オーケストラには何十人と団員がおり、ばらばらに
 演奏してはまとまりませんので、指揮者が「ここはこう、ここはこう」
 と整理していきます。

このような練習の中で我々オーケストラ側は段々と指揮者の実力
 が分かってきます。楽譜をよく知っているのは指揮者としては当然
 で、間違いばかりを指摘する指揮者はいかに有能であろうとも奏者
 からは嫌われます。帝王カラヤンはパートが難しい所を演奏する
 ときには緊張で硬くならないように、あえてそちらに目を向けずに指
 揮をしたとか、フルートが美しいソロを吹くときは、自由にゆったりと
 吹かせるなど実に様々な配慮をしています。その一方で華麗な指
 揮で有名なクライバーの練習風景などをみると、自分の納得いくま
 で何度も何度も繰り返し要求するので楽団員も大変そうでした。ク
 ライバーの「テレーゼ事件」というのも有名です。ウィーン・フィル
 相手にベートーヴェンの交響曲第4番の録音中に2楽章の弦楽器の
 リズムを「テレーゼ、テレーゼ」と(恋人を想うように甘く優しく)弾い
 てほしいと指示を出したのに、団員はなんのことが分からずに混乱
 していると「あなたたちは、マリー、マリーと弾いている」と言い出し、
 最終的に怒って帰ってしまい、録音は中止になったそうです。ちな
 みにテレーゼは交響曲4番作曲中のベートーヴェンの恋人で、
 マリーはかつての恋人だったとか。ちなみにその後ウィーン・フィル
 とクライバーは仲直りをして何度も素晴らしい演奏を我々に残して
 います。

指揮者というのはテクニックだけでなくその人の音楽性、人間性も
 大事なのです。小澤征爾さんが尊敬されたのも恐らくそこではない
 かと思います。私が大学生の時、先輩に「OZAWA！」というアメリカ
 で制作された？ドキュメンタリービデオを何度も観させられました。
 タングルウッド音楽祭でのマーラーの「復活」を演奏する場面から始
 まるこのドキュメンタリーにはピアニストのゼルキンやカラヤン、チェ
 リストのヨーヨーマなどそうそうたる顔ぶれが出ており、彼らとの交
 流を通してそのエネルギーな指揮と飾らない温かな人柄が伺う
 ことができ、それはたいへん興味深いドキュメンタリーでした。

私が唯一小澤征爾さんの生の指揮をみたのは、東京文化会館で
 のサイトウキネン・オーケストラのマーラーの第9番でした。当時ま
 だお元気だった小澤征爾さんがオーケストラと一体となった80分
 にも及ぶ魂をゆさぶる素晴らしい演奏でした。最終楽章では美しくも
 悲しいこの世との惜別を感じる音の後、30秒ほどの静寂が訪れまし
 た。聴衆の誰もが息をすることもできないような圧倒的な静寂で、
 これまでの音楽会で一度も経験したことはなく、生涯忘れることが
 できません

小澤征爾さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

文責 齋藤 幹